

歯学部
附属病院

戸惑いから情熱への自己点検・評価

— 最短期日で出来た書物 —

歯学部附属病院
自己点検・評価委員会

委員長

岩本 義史



歯学部附属病院の

理念・目標

の他学部の構成員の方々にも目を通していただけたらと念願している次第である。

暗闇のスタート

起案から百七十頁に近い本を書き上げるには、たとえ分担執筆であろうと最低一年の期間が必要である。それを八ヶ月たらずで書き上げたのであるから、いかにワープロの時代といっても、我れながら驚きである。

スタート時点で、実務的委員会である歯学部附属病院自己点検・評価委員会小委員会（十九名で構成）の各委員は自己点検・評価とは一体どういうことか、どのように進めればよいのか、それぞれ一様に戸惑ったものである。さらに、どのようにまとめるか先が見えない、まさに暗闇の中を自ら光明を見出せと走らされた、というのが実感であった。

情熱を燃やした
構成員各代表

病院長の激励のもと、委員会、小委員会も回を重ねるごとに委員の熱情がにえたり、脱稿の二月末頃は全員必死の状態であった。

極めて短期間で一冊の報告書が出来たのには、一つには、小委員会に構成員各組織の代表が加わったことである。病院は御承知のとおり多種多様な構成員から成っており、医師、歯科医師、薬剤師、診療放射線技師、看護婦、栄養士、歯科衛生士、歯科技工士、事務職員等十種に近い。しかもどの職種が欠けても病院は機能していかない。二つ目には小委員が相互に連携を密にし、情熱をもって取り組んだことである。まさに一人残らずやる気を見せた

ものであった。わが歯学部附属病院構成員の団結、協調性を象徴しているといえよう。三つ目には、当初に本院の理念・目標を明確に示したことである。暗闇のスタートといったが、自ら作った光明があったからこそ、当初の目的以上の成果が得られたといえよう。

全国で初の歯学部附属
病院自己点検・評価

全国国公立大学歯学部附属病院長会議で病院のあり方についての検討が過去になされたことはあるが、一病院が自己点検・評価を行い、一冊の報告書にまとめたのは広島大学が初めてである。その意味で、他大学の歯学部附属病院の自己点検・評価の参考にしていただければと思っているし、広島大学

百七十五頁にのぼる本報告書の内容は単なる実情や実態の報告書ではない。まさに、評価・点検を随所で行ったつもりである。均一な評価点検が行えたかどうかについては反省もしているし、今後の自己評価・点検報告書の改訂版に待たねばならない。

震地区再開発がいよいよ組上に載せられ、検討段階に入った。本報告書はそのための歯病の考え方の核となるものと信じている。

最後に報告書にある本院の理念を再掲して、締め括りたい。

人間の真の幸福を目指して、教育、研究、保健医療、福祉の総合的観点から、社会および個人の、健康で文化的生活の向上に寄与するため、本院の全構成員の有機的連携のもとに機能するものである。

